

事業所名 柿が丘学園

公表日 令和7年3月31日

		チェック項目			工夫していると思う点・改善が必要 だと思われる点など	課題や改善すべき点
			はい	いいえ		
環境・ 体制 整備	1	訪問支援に使用する教具教材は適切であるか。	2		・ 訪問先の環境に配慮し、訪問先職員と相談をしながら一緒に必要だと思われる教材を準備している。	
	2	利用希望者に対して、職員の配置数は適切であるか。	2			
業務 改善	3	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	2		・ 園長や児童発達管理責任者と情報共有を行い、振り返りや目標設定を行っている。	
	4	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	1	1	・ 今年度より実施。 ・ 結果を真摯に受け止め、事業改善に活用したい。	・ 自己評価等の活用
	5	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	2		・ 年に二度、面談の機会あり。	
	6	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		2	・ 専任担当者一名が訪問支援を行っている。『第三者』と繋がる機会をどのように考えたら良いか。 ・ 第三者委員会による外部評価について、検討する必要がある。	・ 外部評価・第三者評価の導入検討
	7	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	2		・ 他事業所との情報交換会の機会を設けて頂き、他事業所の一面を垣間見ることが出来たと同時に、自分の事業内容を振り返るいい機会となった。	・ 保育所等訪問支援の質の向上のための研修・研鑽 ・ 他事業所とのつながり
	8	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、保育所等訪問支援計画を作成しているか。	2		・ 対象児が低年齢のため、ニーズの把握には困難さがある。こどもの行動からニーズが把握できるよう観察力の精度を高めるよう努めている。本人へのアセスメントは、訪問時に適宜行っている。	・ アセスメント方法の検討・精度の向上
	9	保育所等訪問支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	2		・ 園長及び、児童発達管理責任者と訪問支援員で計画検討を行っている。	
	10	保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者等と連携し、訪問先施設や担任等の意向を盛り込んでいるか。	2		・ アセスメント・計画説明の際には保護者とともに訪問先職員も同席してもらい、意向が反映できるようにしている。 ・ 支援の提供時間内に、適宜聞き取りや相談を行いつつ、保護者同席の面談でも共有している。	・ アセスメント方法の検討
	11	保育所等訪問支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	2		・ 職員間は口頭や書面で確実に共有できるよう工夫している。計画内容は訪問の度に確認し合うよう務めている。 ・ フィードバック面談など、対面で確認する機会を設けている。	

12	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	1	1	<ul style="list-style-type: none"> 標準化されたツールなどは用いていない。心理士と作業療法士が配属になったため、専門職の参画について検討する必要がある。 訪問支援を行った面談の中で行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> アセスメント方法の検討
13	保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の提供すべき具体的内容」を踏まえながら、具体的な支援内容が設定されているか。	2			
14	保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	2		<ul style="list-style-type: none"> 職員間は口頭や書面で確実に共有できるよう工夫している。計画内容は訪問の度に話し合うよう努めている。 支援計画は園長及び児童発達管理責任者と会議を行って作成し、出来上がったものの閲覧には副園長も加わる。 	
15	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	1	1	<ul style="list-style-type: none"> 事前打ち合わせは毎回ではなく、検討が必要なケースについてのみ行っている。 	
16	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	2			
17	保育所等訪問支援を実施する際、訪問先の理念や支援手法を尊重して支援を行っているか。	2		<ul style="list-style-type: none"> 訪問先によって理念が違い支援方法も異なる。多角的に訪問先について理解し尊重した支援となるよう努めている。 	
18	毎回の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	2		<ul style="list-style-type: none"> 先回の訪問との繋がりや継続性が確認できるような記録となるよう工夫している。 記録を詳細にまとめることで自身の行った支援を振り返る機会となり、検証・改善へ繋げている。 	
19	定期的に保護者や訪問先の意向の確認やモニタリングを行い、保育所等訪問支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	2		<ul style="list-style-type: none"> 定期的な見直しとなっている。計画と現状を把握し、見直しの有無を検討する必要がある。 本人の成長や変化などは毎回のフィードバック(面談など)で確認し、計画の見直しは半年を目途に行っている。 	
20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解したものが参画しているか。	2			
21	地域の保健、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	1	1	<ul style="list-style-type: none"> それぞれ必要時連携しているが体制としては整っていない。今後の課題となる。 公立施設であるため、連携する体制は整っていると考えられる一方で、現時点で必要性を感じるケースはないと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の関係機関との連携体制の構築
22	就園・就学時の意向の際には、保育所等や学校との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	2		<ul style="list-style-type: none"> 支援ファイルである『すこやかファイル』を使って、園などで行ってきた支援を就学先に情報提供し、同時に就学後の支援を保護者と共有する機会を持っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 就学移行支援の検証と向上

関 や 保 護 者 と の 連 携	23	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	1	1	<ul style="list-style-type: none"> 外部研修には参加しているが、専門家や専門機関からの助言の仕組みはない。質の向上のため外部専門家に入ってもらい体制作りが課題である。 外部研修はもちろん、学園でのST相談に同席してケース検討など聞く機会を頂いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修機会の確保
	24	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。		2		
	25	日頃から子供の状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について「共通理解」を持っているか。	2		<ul style="list-style-type: none"> 訪問支援当日もしくは近日にフィードバックの機会を持ち、状況について確認や共有を行っている。 	
	26	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		2	<ul style="list-style-type: none"> 柿が丘学園の児童発達支援で行っている、保護者向けの研修などが開催される場合に情報共有した方が良いのだろうか。目的や状況の相違から難しいとも考えられる。 	
保 護 者 へ の 説 明 等	27	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	2		<ul style="list-style-type: none"> 保護者だけでなく訪問先職員にも同席してもらい共通理解が持てるようにしている。 契約時に行っている。 	
	28	訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明を行っているか。	2		<ul style="list-style-type: none"> 利用開始時に説明を行い、毎回のフィードバックでもおこなっている。 	
	29	保育所等訪問支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	2		<ul style="list-style-type: none"> 対象児が低年齢であるためこどもの意思・意向を確認することが難しいため行動観察からくみ取れるよう意識している。 保護者と訪問先職員が同席している場で、計画作成のアセスメントを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> アセスメント方法の検討
	30	「保育所等訪問支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から保育所等訪問支援計画の同意を得ているか。	2		<ul style="list-style-type: none"> 保護者と訪問先職員が同席している場で同意を求めよう心掛けている。どうしても難しい場合は、保護者に同意を得たうえで、訪問先へ確認をしている。 	
	31	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	2		<ul style="list-style-type: none"> 三者面談を行うので、保護者の悩みや相談内容を訪問先園と共有することができている。 	
	32	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		2	<ul style="list-style-type: none"> 訪問支援の役割上特に必要性を感じていない。 柿が丘学園の児童発達支援で行っている、保護者向けの研修などが開催される場合に情報共有した方が良いのだろうか。目的や状況の相違から難しいとも考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者支援の目的と方法の検討
	33	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	2		<ul style="list-style-type: none"> 相談があった時には相談内容に応じて上司と相談したり対応職員を検討したりし、迅速かつ適切に対応するよう努めている。 適宜行っている。訪問後の報告も迅速に行っている。 	
	34	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。		2	<ul style="list-style-type: none"> 訪問支援の役割上特に必要性を感じていない。 訪問フィードバックの面談にて補えていると考えている。 	

	35	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	2			
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	2		<ul style="list-style-type: none"> ・ こどもとの意思疎通については最も苦慮していることであり、研鑽を積み力をつけていきたい課題である。 ・ 伝わりやすい言葉や方法を選んでいる。 	
訪問先施設への説明等	37	訪問支援に加え、訪問先からの相談等に適切に応じる体制を整え、必要な助言や支援を行っているか。	2		<ul style="list-style-type: none"> ・ 相談があった時には相談内容に応じて上司と相談したり対応職員を検討したりし、迅速かつ適切に対応するよう努めている。 ・ 訪問先からの質問や相談には丁寧に応じる。必要があれば即答はせず、一旦持ち帰って園長や児童発達管理責任者に報告・相談の後、改めて回答をしている。 	
	38	保育所等訪問支援の実施後に、訪問先施設とカンファレンスを行っているか。	2		<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者同席のカンファレンスはもちろん、必要に応じて訪問先職員とのカンファレンスも行っている。限られた時間を有効に使えるよう心がけている。 	
	39	保育所等訪問支援の実施後に、家族等へ適切に支援内容等の共有を行っているか。	2		<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設職員とのカンファレンスに加え、必要に応じて保護者のみとカンファレンスも行う。 	
	40	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	2			
	41	訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。	2		<ul style="list-style-type: none"> ・ 求められた時には真摯な態度で確実に応じることで信頼関係が築けるよう、努めている。 ・ 訪問先職員の悩みや困りごとを直接その場で聞き取り、支援内容を振り返ることで出来る支援内容を職員らと一緒に考えている。 	
		42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	2		<ul style="list-style-type: none"> ・ 訪問支援の役割上、訪問先のマニュアルや訓練に準じて参加している。 ・ マニュアルの存在を認知していない。自身の確認不足と反省している。
非常時等の対応	43	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	2		<ul style="list-style-type: none"> ・ 訪問支援の役割上、訪問先のマニュアルや訓練に準じて参加している。 ・ 安全計画は作成していない。アレルギー対応や危険防止など、必要な研修は機会があれば参加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画やマニュアルの研究・整備 ・ 研修の実施
	44	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	2		<ul style="list-style-type: none"> ・ 今までに事例がなかったが、あった際にはヒヤリハット報告書にて周知することになっている。 ・ 訪問先での安全確認や危険防止などは都度行っている。ヒヤリハットの作成は過去一度もなく、そのような状況にも遭遇していない。今後、想定した対応策が必要だろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 報告の徹底
	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	2		<ul style="list-style-type: none"> ・ 動画での研修。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修機会の確保

46	<p>どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。</p>	2	<ul style="list-style-type: none"> 『身体拘束はしない、しないもの』という認識で支援をしているが、意識して対応するためにも支援計画に記載するよう改善が必要である。現在担当する児らの中に、身体拘束が必要と思われる児がないということもある。必要と思われる場合は、訪問先職員や保護者らと確認したうえで考えたいと思っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修機会の確保
----	---	---	--	---